東電・中電 火力発電事業で新会社 今月設立

4 月 15 日 17 時 38 分

k10010049531_201504151822_201504151824.mp4

東京電力と中部電力は、海外からの燃料調達を共同で行うなど火力発電事業を包括的に行う新会社を、今月設立することを正式に発表しました。

これは東京電力と中部電力が１５日、都内で記者会見を開き、明らかにしたものです。

それによりますと、両社は５０％ずつ出資して、火力発電事業を包括的に行う新会社「ＪＥＲＡ」を今月３０日に設立するとしています。

また、新会社の社長に中部電力の垣見祐二専務執行役員が、会長に東京電力の内藤義博取締役が就任するとしています。

新会社では火力発電の燃料に使われるＬＮＧ＝液化天然ガスなどの共同調達などを進めるとともに、再来年春ごろに既存の火力発電所についても新会社の下で統合するか判断することにしています。

記者会見で、社長に就任する中部電力の垣見専務執行役員は「消費者のために安い燃料を調達して発電の原価を下げるという設立の原点を忘れないようにしながら、事業の規模や領域をグローバルレベルにまで拡大していきたい」と述べました。